

広げよう つなげよう 行動の環 人間市環境まちづくり会議 会報

編集・発行/人間市環境まちづくり会議

復活!! 環境ウォーキング



11月16日(土)に4年ぶりの環境ウォーキングを開催しました。天候にも恵まれ、参加者からは次回の開催を望む声がたくさん寄せられました。今回のコースは「加治丘陵コース」と「不老川コース」の2コース。約2〜3時間かけて市内の自然を再発見しました。ゴールの愛宕公園では、人間市産の食材で作った芋煮がふるまわれ大盛況でした。皆さん、もちろん、マイ箸・マイどんぶり持参です!



加治丘陵コース

実行委員の説明を聞きながら人間市の自然を満喫



不老川コース

平成25年度の年間事業

- 5月 ● 総会
 - 浮島メガソーラー等見学会
- 6月 ● 第2回いるま環境フェア開催
- 7月 ● 路上喫煙防止キャンペーンに参加
 - 大森の池まつりに参加
- 9月 ● ポイ捨てゼロ推進運動に参加
 - 環境団体との交流会
- 10月 ● ごみ減量・マイバッグ推進キャンペーンに参加
 - いるま万燈まつり会場のごみ拾いを実施
- 11月 ● 環境ウォーキング開催
- 12月 ● 生涯学習フェスティバルに参加
 - エコプロダクツ2013見学会
 - ごみ処理施設と金属回収工場見学会
- 3月 ● 会報の発行



浮島メガソーラー等見学会



路上喫煙防止キャンペーン



エコプロダクツ2013見学会

※7月〜9月及び12月〜2月にエコライフデー活動を実施
※ごみひろい隊の活動は、毎月第2日曜日に豊岡コースと藤沢コースを交替で実施(詳しくは、ホームページの「ごみひろい隊」をご覧ください)

人間市環境まちづくり会議

検索



人間市環境まちづくり会議

事務局 人間市役所環境経済部環境課
TEL 04-2964-1111(代表) 内線 3221、3226
FAX 04-2965-0232(代表)

新会長 あいさつ

環境を考える仲間とともに



会長 木内 勝司

▼人間市環境まちづくり会議とは

人間市環境まちづくり会議は、市民、事業者、民間団体、市の4者がお互いに協力しあって環境基本計画を実現する組織です。現在は第二次計画(平成22年度〜31年度)が進行中です。

この計画は「安全で健康かつ快適な環境の将来世代への継承」「環境への負荷の少ない持続的に発展することができるとする社会の構築」「地球環境に配慮した取り組みの推進」という、人間市環境基本条例の理念の実現を目指すものです。

▼毎年起こる異常気象

1時間に100ミリメートルを越すような豪雨の増加や竜巻、寒波や豪雪などの、このところの異常気象の顕在化などから、いよいよ地球温暖化による影響が目に見える形で、私たちの生活を脅かすつつあります。地球温暖化は、暖かくなるというよりは、厳しい暑さや寒さ、暴風雨や干ばつなど、厳しい気象条件をもたらすといわれています。



▼今こそ循環型社会の構築を急がねば

このまま環境の破壊が続けば、人類の生存も危うくなるという危機意識が強くなり、同時に環境破壊を自らの手で食い止めようという意識も高まっています。人間の経済活動が自然の物質循環を攪乱するようになったことが環境破壊であり、環境問題の本質です。世界中で今日模索されている主な取り組みは、環境を破壊しない生産、消費、廃棄のあり方です。さらに環境への負荷を最小限とする循環経済の確立、再生産可能資源の重点的利用、そして循環型社会の構築が急務となっています。

▼会員の皆さんへ

こうした中で、人間市環境まちづくり会議の役割は大きな意義を持つています。循環型社会の構築を目指して、平成24年度から始めた「いるま環境フェア」

平成26年度総会
5月17日(土)
午後2時30分より
市民会館 3階 1号室
みんな来てね!

「部会だよりその1」
日本のトイレは世界一

地球温暖化防止部会

一般的に考えると水の使用量の一番は「風呂」と思われる方が多い。しかし、日本の家庭での水の使用量の一番は「トイレ」である。国土交通省の調べによると1人当たり1日296ℓが消費されている。1位が「トイレ」28%、2位が「風呂」24%、3位が「炊事」23%となっている。昔からあるTOTOのトイレは1回で13ℓの水を消費する、最近のトイレでは3・8ℓと約



4分の1程度に消費量が抑えられるようになった。技術の進歩には驚きである。



TOTOの3.8ℓのトイレ

また、世界でも日本の水便座は類がない。トイレの便器から温水が出ることに驚かされる外国人が多い。外国の有名俳優のトムクルーズやマドンナが来日した時、日本の温水便座を大変気に入って帰ったという。

日本の森林率は67%、日本のどこでも森林と清流があり水はタダで手に入ると思う人が多い。世界中で水不足で苦しんでいる人々の事を考えると水を大切に使う事を忘れてはならない。

(本多進記)

「部会だよりその2」
ごみは資源

みんなのごみ部会

ごみ部会の定例会の開催日を土曜の昼間に変更してから今までより参加者も増加し、以前より活気のある部会となってきた。

環境フェアや生涯学習



フェスティバルでは「雑がみ」の分別を中心に展示・説明を行った。説明した来場者の多くは理解していたのだが、説明できたのは50〜60人程度の僅かである。その他の多くの市民にいかにか協力していただくかが今後の課題であり、どうしたら市民に協力してもらえるかの議論を深めていきたい。啓発活動を行った事で満足してはい何れも変わらないのは確かである。

見学会は最新のごみ処理設備を持つ川越市資源化センターや小型家電などから金属回収を専門に行っている(株)鈴徳を見学。アンケート



ごみひろい隊
平成26年1月12日

(銀持和夫記)

第3回いるま環境フェアに向けて

第2回いるま環境フェアは平成25年6月16日(日)に開催され、多くの皆さんに会場していただきました。前日には、環境活動報告会や前夜祭コンサートも行われ、盛り沢山のフェアとなりました。第3回いるま環境フェアは、平成26年6月15日(日)に産業文化センターで開催します。現在は、第3回の開催に向けてワーキングメンバーで準備を進めています。パネル展示やホールイベントを中心に楽しい環境フェアにする予定です。前回と同様に環境川柳の発表やスタンプリーマも実施しますので、お友達やご家族皆さまお誘いの上、ご来場ください。

また、市内の都市鉱山と呼ばれている松田産業(株)からは、今回も金の延べ棒が展示予定です。今度は延べ棒に触れる工夫を検討中です。

フェアの内容は、市公式ホームページで随時更新する予定です。



第2回の様子

金の延べ棒

URL : <http://www.city.iruma.saitama.jp>

運営委員 NEWフェイスの紹介!

とどろき りょう
轟 涼 さん



新しく運営委員となった轟涼です。環境やまちづくりに関心を持ったきっかけは、子供が生まれて食品添加物のことが心配になったからです。

せっけんや遺伝子組み換え、ごみの問題、Co2削減やエネルギーのことなど環境がまちづくりと関係が深いことにも気づきました。

また、入間市の女性問題審議委員を務めたことから、現在、男女共同参画推進アドバイザー会議に参加しています。このような経験からも、「元気な入間」の実現には、共にいきいきと繋がること、地域で顔の見える関係を築くことの重要性を実感しています。

これからも、入間市で暮らし続けながら、次世代に素敵な未来が残せるよう、活動していきたいと考えています。

こうもり やすお
幸森 康夫 さん



私はこれまで道路や公園、下水道、ガスといった都市施設の整備を行う事業に従事してきたことから、大気汚染への対策には道路整備による渋滞の緩和を、水質の汚濁対策には下水道の整備を、緑の不足には緑地の整備を、というように考えていました。

そのため、当会議で行っている活動に対して「市民活動レベルでは、環境問題を根本的に解決することはできないのではないか」と思っていました。

しかしながら、会員の誰かが「市民一人ひとりには小さいけれど、みんなが同じ気持ちでひとつになって取り組めば、地球環境は守れるんだ!」と言った言葉に感動し、私もこの会議の末席で、真剣に考えるようになりました。今後、環境問題について、市民の役割の一端を担えるよう取り組んでいきたいと思っています。